

平成 29 年 3 月 22 日

「これからの社会貢献活動支援検討会議」委員各位(お願い)

「検討会議」でのご審議ご尽力に敬意を表しますとともに、NPOの中間支援活動に携わっている者として感謝申し上げます。

早速ですが、「検討会議」でのご配慮のお願いです。

昨年 11 月 2 日の検討会議において事務局から報告されました「NPOからのヒアリング結果」につきまして、NPO及び市民活動サポートセンターにアンケート調査をしました。その他、類する「ニーズ」調査をしました。その結果です。

これらの結果なども考慮して支援策の議論を進めて頂けるとありがたいです。

何卒よろしくお願い申し上げます。

1、「あいちモリコロ基金」申請件数推移

- ・申請件数は多く競争率も高い。初期(2倍)、展開期(2.7倍)、大規模(4倍)で、特に、大規模が高い。

2、「サポートセンターアンケート」結果

- ・助成申請件数が減っているのは一部少数(約 1/5)。制度内容や募集方法の見直しが進んでいる。

3、「福祉系NPOアンケート」結果

- ・大半の団体は財源確保や資金繰りに困っている。収入が減少している団体も多い(1/3)。財政規模が大きいので「資金に困っていない」ように見えるが、実態は制度変更・縮小の影響を受けたり、「人件費」や「新規事業費」などの確保に困っている。

4、「新基金」賛同署名(数・内訳)

- ・大変多くの方、NPO、市民団体、行政、学識者の方が、これからも、モリコロ基金のような助成制度として、「新しい資金制度」を求めている。

5、「市民活動団体資金循環等調査」(企業の寄付実態)結果(平成 25 年 3 月/名古屋市調査)

- ・標記調査の中で、名古屋市内の中小企業 1719 社を調査、155 社回答。①この時期 NPO等へ寄付した会社はおよそ 1/4、②中小企業憲章で定められた「地域や社会貢献への姿勢」は、1/3程度が会社のテーマや理念に定めている。

以上のように、NPO・市民活動団体に「資金ニーズ」はあります。「助成金」ニーズも減っていません。社会的にも、モリコロ基金の成果と理念を継承しこれからの時代に対応した新しい「助成基金」を必要とする声は広範にあり、企業の社会貢献意識も存在します。

何卒、よろしくお願い申し上げます。

NPO法人ボランティアネイバース
理事長 大西 光夫